※令和４年度以降入学生用

学校番号	3029

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	理数生物	単位数	２単位	年次	２年
使用教科書	高等学校　生物　（第一学習社）						
副教材等	スクエア最新図説生物（第一学習社）、リードα生物基礎＋生物（数研出版）、セミナーノート生物（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさないという気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんから新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。

授業の受け方

１．講義

ア．授業中は教科書、資料集の該当ページを広げ、本文や図を見ながら話を聞く。

イ．ノートを要領よくとるとともに、教科書、資料集に線を引いたり、印をつけるという心がけが大切。

ウ．わからないことが出てくれば積極的に先生に質問して解決しよう。授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったところなど授業中に理解するようにしよう。

２．演習

ア．家で問題を解いてくる。次の授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったところなど授業中にわかるようにしよう。

イ．自分の解答と比べながら解説を聞く。自分が解けていても誤った考え方をしている場合もあるのでしっかり聞こう。

2　学習の到達目標

細胞、個体、群集など、各レベルでのさまざまな生命現象を知り、その現象を説明する原理を見出そうとするのが生物学を学ぶ態度である。生命の特徴の一つである恒常性の維持のしくみ、生物が集団となった群集に見られる生命現象、細胞内のさまざまな構造、物質の働きを理解し、科学的な自然観を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間まで	生物の進化と系統	生物の進化 生物の系統	a:進化と系統についての基本的な概念を理解している。 b：進化と系統について考察し、表現できる。 c:進化と系統について関心を持ち、自ら意欲的に取り組もうしている。	考査	考査	課題レポート
前期期末まで	生命現象と物質	生体物質と細胞 生命現象とタンパク質 代謝	a:細胞とタンパク質の基本的な概念を理解している。 b:細胞の働きをタンパク質から考察し、表現できる。 c:生体物質や代謝について関心を持ち、自ら意欲的に取り組もうしている。	考査	考査	課題レポート
後期中間まで	遺伝情報の発現と発生	遺伝子の発現 遺伝子の発現調節 発生と遺伝子 遺伝子を扱う技術	a:遺伝子の基本的な概念を理解している。 b:遺伝子について考察し、表現できる。 c:遺伝子について関心を持ち、自ら意欲的に取り組もうしている。	考査	考査	課題レポート
後期中間まで	生物の環境応答	刺激の受容と反応 動物の行動	a:環境応答の基本的な概念を理解している。 b:環境応答について考察し、表現できる。 c:生物の行動と環境との関係について関心を持ち、自ら意欲的に学ぼうとしている。	考査	考査	課題レポート
後期期末まで		植物と環境 植物ホルモン				
後期期末まで	生態と環境	個体群と生物群集 生態系の物質生産と消費 生態系と人間生活	a:個体群・群集の基本的な概念を理解している。 b:個体群・群衆について考察し、表現できる。 c:個体群や生態系について関心を持ち、自ら意欲的に学ぼうとしている。	考査	考査	課題レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度